

# 巻頭言

## 「情報技術を学ぶ」から「情報技術で学ぶ」へ

根本 實

40年前、桁数の少ない簡単な計算には私は計算尺を使っていた。桁数の多いかけ算や割り算には手回しの計算機を使った。今はどちらもわが家の重要文化財として大切に保存している。30年前ごろから一気に電卓・パソコンの時代になった。あとはめまぐるしい進歩が続いて、今ではコンピュータなしの科学技術はどの分野でも見あたらなくなった。もはや私は、日常的にコンピュータ制御されている機器やワープロに翻弄され、情報技術を理解しようとしても巨大な氷山のほんの端を入れ歯でかじっているような状況にある。デジタルデバイドに陥った旧石器時代の人間といわれても仕方がない。

一方、学生諸君は生まれたときからコンピュータ時代であり、すべてを当然のことと受け止めているに違いない。違和感など全くないに違いない。この差は大きい。これから生きていくに必要な高度な科学技術リテラシーを自然に素早く受け入れる素地ができている。現在の学生諸君が社会の中心となって活躍する頃には情報化がさらに飛躍的に進んでいるに違いない。

平成13年度の予算化により本校の学内LANが改修され、情報通信環境は大幅に改善されることになった。学内のサーバーやLANは教育・研究だけではなく、管理運営でも重要な役割を果たしている。カリキュラムを見ると、どの学科でもいくつかの情報技術リテラシー関連の科目が並んでいる。もはや「情報技術」を学ぶのは電気工学科や電子制御工学科、あるいは電気・電子工学専攻だけではなく、すべての学科、専攻で必須となっている。しかし、時代はもはや「情報技術を学ぶ」から「情報技術で学ぶ」時代に入っている。英語の学習でさえCALL (Computer Assisted Language Learning) の時代であり、他のあらゆる講義ももっと情報技術を活用しなければならない時代になっている。「講義」は人と人との直接的な相互作用が基本であり、その間には何も介在しないのが理想の姿という説もあるが、それですむのはごく一部の講義だけになろう。今回の改修ではすべての教室で情報技術を十分活用できる状態に入れなかったのは心残りであり、近い将来、どの講義室でも先端技術に囲まれた高専らしい授業ができる日が来ることを願っている。